

認知症 地域で支えて

神埼で福祉のまち考える集い

神埼市

福祉のまちづくりについて考える社会福祉研究会
が25日、神埼市の西九州大神埼キャンパスであった。
学生や地域住民ら110人が参加。全国に先駆けて、地域で認知
症の高齢者を支える大牟田市の取り組みから、当事者自線の重要
性などを学んだ。

先進地 大牟田の取り組み学ぶ



認知症の当事者自線のまちづくりの重要性について語る大谷さん（神埼市の西九州大）

「当事者自線の理解 大切」

「大牟田市における地域の人の物語や生活習慣などが見えてくる」と説明した。と題し、社会福祉法人東翔会グループホーム「ふあみりえ」ホーム長の大谷るみ子さんが講演した。

大牟田市では、認知症1・2年間で計406時間かけ、行ってことや、小中学生同けに、認知症当事者の実際の出来事を描いた絵本を基に学習する教室を行っていることなどを紹介した。数年後に行った追跡調査では、76%の子もたちが「地域の高齢者へのあいさつ」「認知症のことを家族へ伝える」などの取り組みを行っているという。

大谷さんは、認知症の当事者との関わりの中から得た体験を踏まえ、「『認知症だから仕方ない』という考え方ではなく、なぜ出るのかに注目すれば、そ

「大牟田市における地域の人の物語や生活習慣などが見えてくる」と説明した。と題し、社会福祉法人東翔会グループホーム「ふあみりえ」ホーム長の大谷るみ子さんが講演した。

（福本真理）